

キーワード

IBD

DSS

TNBS

デキストラン硫酸

びまん性炎症

粘膜固有層のT細胞



デキストラン硫酸ナトリウム誘発大腸炎モデル

炎症性腸疾患（IBD）に対する新薬・新規治療法開発を視野に入れ、IBDモデルとしてデキストラン硫酸ナトリウム（DSS）大腸炎モデルと、トリニトロベンゼンスルホン酸ナトリウム（TNBS）大腸炎モデルが広く利用されています。

当社では両モデルが実施可能ですが、今回はDSS誘発大腸炎モデルについてご紹介します。

試験方法

使用動物：マウス C57BL/6J

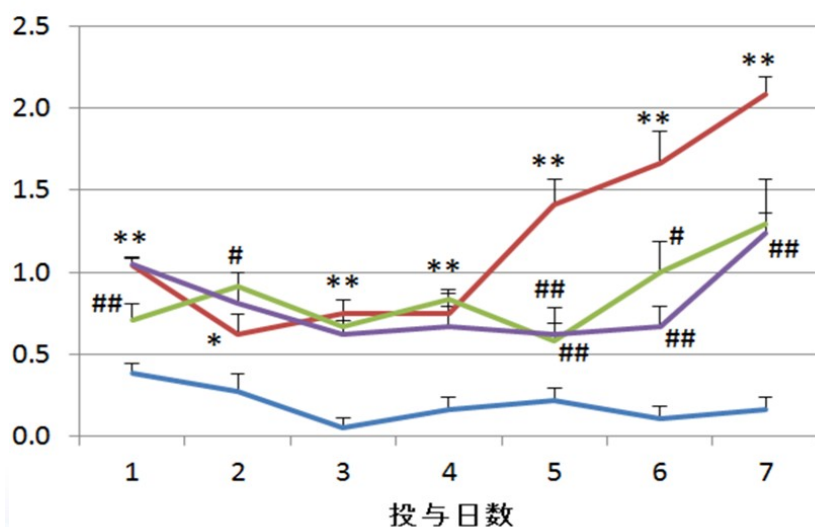
誘発方法：デキストラン硫酸ナトリウム（DSS）を7日間飲水投与して、大腸炎モデルを誘発する。

群 構 成：Control 群、DSS 群、DSS+タクロリムス低用量 群、DSS+タクロリムス高用量 群
（タクロリムスはDSS投与初日から7日間、経口投与する）

評価・結果

評価方法：Disease Activity Index*（体重減少、下痢、血便スコアから算出）、大腸長、病理組織学的検査
*病気の活動性を数値化するための評価指標の総称。

Disease Activity Index



結果

タクロリムスの投与により、
**DSS誘発大腸炎に対する
効果が認められた。**

* P<0.05, ** P<0.01 : vs control
P<0.05, ## P<0.01 : vs DSS